



2022年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2021年11月11日

上場会社名 オイシックス・ラ・大地株式会社 上場取引所 東
 コード番号 3182 URL https://www.oisixradaichi.co.jp/
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 高島 宏平
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役経営企画本部長 (氏名) 松本 浩平 (TEL) 03-6867-1149
 四半期報告書提出予定日 2021年11月12日 配当支払開始予定日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2022年3月期第2四半期の連結業績(2021年4月1日~2021年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		EBITDA(※1)		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年3月期第2四半期	56,167	18.1	3,347	△15.8	4,188	△10.5	2,156	△12.1
2021年3月期第2四半期 (※2)	47,566	46.1	3,976	341.5	4,678	246.8	2,452	528.2

(注) 包括利益 2022年3月期第2四半期 2,312百万円(△2.8%) 2021年3月期第2四半期 2,379百万円(669.4%)

(※1) EBITDAは、営業利益+減価償却費+のれん償却額としています。

(※2) 前第2四半期連結累計期間の営業利益は、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う宅配需要の急増により売上高が増加した一方で、販促費用等が抑えられたという特殊要因により増加しておりました。

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年3月期第2四半期	59.00	58.97
2021年3月期第2四半期	65.00	64.84

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2022年3月期第2四半期	51,695	22,309	41.5
2021年3月期	38,360	19,991	49.8

(参考) 自己資本 2022年3月期第2四半期 21,446百万円 2021年3月期 19,090百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2022年3月期	—	0.00	—	—	—
2022年3月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2022年3月期の連結業績予想(2021年4月1日~2022年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		EBITDA		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	105,000	4.9	5,000	△33.0	6,500	△27.0	3,000	△40.4	82.13

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)

2022年3月期2Q	38,014,492株	2021年3月期	37,998,908株
2022年3月期2Q	1,469,712株	2021年3月期	1,469,655株
2022年3月期2Q	36,540,492株	2021年3月期2Q	37,734,575株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数 (四半期累計)

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績の見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件等については、添付資料P. 4「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(会計方針の変更)	10
(セグメント情報等)	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の世界的な流行の影響が長期化しており、2021年4月には大都市圏で3度目の緊急事態宣言が発令され、さらに同年8月には国内の新規感染者数が最大となるなど、感染症収束の見通しが不透明な状況が継続しております。また個人消費についても、今後の感染拡大の状況やワクチンの接種進捗によっては引き続き低調に推移することが想定されます。

一方、継続的な外出自粛要請やリモートワークの普及などのライフスタイルの変化により、オンライン経由の購買行動の裾野が拡大しており、食品宅配に対する消費者の需要は引き続き高い状態が継続しております。

このような環境の中、当社グループにおいては、食を支えるインフラ企業として、安定的な出荷キャパシティや商品サプライの確保に取り組むとともに、お客様の家庭での食の在り方が大きく変化する中で、「健康・免疫意識の高まり」、「家庭での食事頻度・人数の増加」など新しいお客さまニーズに沿った商品・サービスを提案するなど、新型コロナウイルス感染症による変化対応を優先的に実施してまいりました。また、経営戦略の柱である「国内宅配事業の成長・収益力強化」に向け、カスタマーエクスペリエンスの進化及びローコストオペレーションの取組みの実行や、「サステナブルリテール戦略」に基づいたフードロスの削減や温室効果ガス削減への取組みを強化しております。

これらの結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は56,167百万円(前年同期比18.1%増)、営業利益は3,347百万円(前年同期比15.8%減)、EBITDAは4,188百万円(前年同期比10.5%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益は2,156百万円(前年同期比12.1%減)となりました。

なお、第1四半期連結会計期間より、報告セグメントとして記載する事業セグメントを変更しており、当第2四半期連結累計期間の比較・分析は、変更後の区分に基づいております。

① 宅配事業(O i s i x)

インターネットを通じて主に食品・食材の直販を行う宅配事業(O i s i x)は、共働きの子育て世代を主要ターゲットとし、プレミアムな時短を実現する商品、サービスを提供しております。会員数については、当第2四半期連結累計期間においても、新規獲得プロモーションが順調に進捗しており、前連結会計年度末(2021年3月末)の308,899人から、当第2四半期連結会計期間末(2021年9月末)には347,772人へと大幅に増加しております。加えて、継続的な食品宅配の需要の高まりに伴い購買頻度が堅調に推移していることや、主力商品であるKit Oisixの売行きが好調に推移していることなどにより、売上高は増加しております。

一方、セグメント利益は、当初計画に対し順調に推移しているものの、新規獲得のための販促費増や新海老名ステーションの費用増などの成長に向けた費用の投下により、コロナ影響によりイレギュラーに増加した前年同期のセグメント利益と比べ減少しております。

これらの結果、当第2四半期連結累計期間の業績は以下のとおりとなりました。

売上高	28,580百万円(前年同期比 24.0%増)
セグメント利益	4,045百万円(前年同期比 6.7%減)

② 宅配事業(大地を守る会)

カタログやインターネットを通じて主に食品・食材の直販を行う宅配事業(大地を守る会)は、シニアの二人暮らし世帯を主要ターゲットとし、「ちゃんとした食生活」のコンセプトの元、ターゲットニーズに沿った新サービスの開発、磨き上げに注力しております。足元では、宅配需要の急激な高まりは落ち着きつつあり、新サービスである「まるごはん」を活用した新規獲得のチャレンジを行っております。会員数は、前連結会計年度末(2021年3月末)の45,307人から、当第2四半期連結会計期間末(2021年9月末)には45,394人へ微増しております。

また、売上高・セグメント利益については、手軽に野菜を摂取できる商品・サービスの開発強化などの施策により、当初計画に対し順調に推移しているものの、コロナ影響によりイレギュラーに増加した前年同期の売上高、セグメント利益と比べ減少しております。

これらの結果、当第2四半期連結累計期間の業績は以下のとおりとなりました。

売上高	6,628百万円(前年同期比 6.6%減)
セグメント利益	1,144百万円(前年同期比 4.1%減)

③ 宅配事業(らでいっしゅぼーや)

カタログやインターネットを通じて主に食品・食材の直販を行う宅配事業(らでいっしゅぼーや)は、料理を楽しみたい世帯を主要ターゲットとし、“料理を通じて日々の暮らしが楽しくなる”をコンセプトとした商品、サービス開発を進めております。会員数については、2021年3月にローンチした新サービス「ふぞろいRadish」を活用した新規獲得が好調に推移し、前連結会計年度末(2021年3月末)の62,751人から、当第2四半期連結会計期間末(2021年9月末)には66,464人へと増加しております。

また、売上高・セグメント利益については、当初計画に対し順調に推移しているものの、コロナ影響によりイレギュラーに増加した前年同期の売上高、セグメント利益と比べ減少しております。

これらの結果、当第2四半期連結累計期間の業績は以下のとおりとなりました。

売上高	8,732百万円(前年同期比 3.9%減)
セグメント利益	1,143百万円(前年同期比 29.7%減)

④ 宅配事業(Purple Carrot)

米国で、ヴィーガンに特化したミールキットの宅配事業を展開するPurple Carrotは、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う現地の食品宅配への需要が段階的に落ち着きつつあり、会員数も減少傾向にありますが、前年同期比では、会員数が大幅に伸長した結果、売上高、セグメント利益ともに大きく増加いたしました。

これらの結果、当第2四半期連結累計期間の業績は以下のとおりとなりました。

売上高	5,536百万円(前年同期比 37.0%増)
セグメント利益	811百万円(前年同期比 130.5%増)

⑤ その他事業

当セグメントは、ソリューション事業、店舗事業、海外事業(Purple Carrotを除く)、卸事業等からなるその他事業であります。

食品宅配需要の増加により、他社EC支援(ISETAN DOOR、dミールキット)などのソリューション事業が順調に推移したことや、前年同期に新型コロナウイルス感染症のマイナス影響を受けた店舗・保育園などの卸事業の業績が回復、伸長したことにより、全体では売上高・セグメント利益ともに大幅に増加いたしました。

これらの結果、当第2四半期連結累計期間の業績は以下のとおりとなりました。

売上高	6,911百万円(前年同期比 54.2%増)
セグメント利益	753百万円(前年同期比 33.8%増)

(2) 財政状態に関する説明

① 資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末と比較して13,335百万円増加し、51,695百万円となりました。

流動資産は、前連結会計年度末と比較して981百万円減少し、28,320百万円となりました。これは主に、現金及び預金の減少2,221百万円、売掛金の増加562百万円、未収入金の増加334百万円、その他流動資産の増加190百万円によるものであります。

固定資産は、前連結会計年度末と比較して14,316百万円増加し、23,375百万円となりました。これは、有形固定資産の増加13,870百万円、無形固定資産の減少65百万円、投資その他の資産の増加510百万円によるものであります。有形固定資産の増加の主な要因は、新海老名ステーション(物流センター)の建物に係るリース資産の増加12,774百万円であります。

当第2四半期連結会計期間末における負債は、前連結会計年度末と比較して11,016百万円増加し、29,386百万円となりました。

流動負債は、前連結会計年度末と比較して1,161百万円減少し、16,379百万円となりました。これは主に、買掛金の増加427百万円、未払金の減少486百万円、1年内返済予定の長期借入金の増加137百万円、リース債務の増加507百万円、未払法人税等の減少1,360百万円、ポイント引当金の減少218百万円、その他流動負債の減少127百万円によるものであります。なお、ポイント引当金の減少の主な要因は、収益認識に関する会計基準等の適用によるものであります。

固定負債は、前連結会計年度末と比較して12,178百万円増加し、13,006百万円となりました。これは主に、長期借入金の減少116百万円、リース債務の増加12,267百万円、繰延税金負債の増加9百万円によるものであります。

負債及び固定負債のリース債務の増加の主な要因は、前述のリース資産の増加の主な要因と同一であります。

当第2四半期連結会計期間末における純資産は、前連結会計年度末と比較して2,318百万円増加し、22,309百万円となりました。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純利益2,156百万円によるものであります。

② キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)の残高は、13,330百万円となりました。当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動により得られた資金は、96百万円となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益3,272百万円、減価償却費549百万円、のれん償却額290百万円、売上債権の増加額556百万円、未収入金の増加額334百万円、仕入債務の増加額390百万円、未払金の減少額610百万円、法人税等の支払額2,326百万円によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動により使用した資金は、2,328百万円となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出1,299百万円、無形固定資産の取得による支出322百万円、投資有価証券の取得による支出306百万円、敷金及び保証金の差入による支出399百万円によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動により使用した資金は、37百万円となりました。これは主に長期借入金の返済による支出26百万円、リース債務の返済による支出13百万円によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2021年5月13日付「2021年3月期決算短信」で公表いたしました通期の業績予想に変更はありません。

なお、業績予想は当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2021年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	15,580	13,358
売掛金	8,485	9,048
商品及び製品	1,730	1,786
仕掛品	85	106
原材料及び貯蔵品	422	511
未収入金	2,789	3,124
その他	413	602
貸倒引当金	△205	△216
流動資産合計	29,302	28,320
固定資産		
有形固定資産		
リース資産	500	13,268
減価償却累計額	△457	△576
リース資産(純額)	43	12,691
その他	2,191	3,412
有形固定資産合計	2,234	16,104
無形固定資産		
のれん	1,698	1,497
その他	2,064	2,200
無形固定資産合計	3,763	3,698
投資その他の資産	3,060	3,572
固定資産合計	9,058	23,375
資産合計	38,360	51,695
負債の部		
流動負債		
買掛金	6,173	6,601
短期借入金	1,040	1,000
1年内返済予定の長期借入金	9	147
リース債務	25	532
未払金	6,178	5,691
未払法人税等	2,292	931
賞与引当金	—	1
ポイント引当金	279	60
その他	1,541	1,413
流動負債合計	17,540	16,379
固定負債		
長期借入金	245	129
リース債務	30	12,298
役員退職慰労引当金	6	7
資産除去債務	325	343
繰延税金負債	13	22
その他	206	204
固定負債合計	828	13,006
負債合計	18,369	29,386

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2021年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,993	3,994
資本剰余金	8,014	8,015
利益剰余金	11,718	13,876
自己株式	△4,502	△4,503
株主資本合計	19,223	21,383
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	25	27
為替換算調整勘定	△158	35
その他の包括利益累計額合計	△133	62
非支配株主持分	900	863
純資産合計	19,991	22,309
負債純資産合計	38,360	51,695

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
売上高	47,566	56,167
売上原価	23,587	28,599
売上総利益	23,979	27,568
販売費及び一般管理費	20,003	24,221
営業利益	3,976	3,347
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	0	0
受取補償金	7	8
補助金収入	—	13
資材リサイクル収入	3	3
償却債権取立益	7	12
その他	14	12
営業外収益合計	32	50
営業外費用		
支払利息	9	20
株式交付費	17	—
為替差損	12	8
持分法による投資損失	282	92
その他	5	3
営業外費用合計	327	125
経常利益	3,681	3,272
税金等調整前四半期純利益	3,681	3,272
法人税、住民税及び事業税	1,238	1,014
法人税等調整額	1	141
法人税等合計	1,239	1,155
四半期純利益	2,441	2,117
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△10	△38
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,452	2,156

(四半期連結包括利益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
四半期純利益	2,441	2,117
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	0	2
為替換算調整勘定	△41	193
持分法適用会社に対する持分相当額	△21	△1
その他の包括利益合計	△62	195
四半期包括利益	2,379	2,312
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,390	2,351
非支配株主に係る四半期包括利益	△10	△38

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	3,681	3,272
減価償却費	404	549
のれん償却額	297	290
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△38	11
賞与引当金の増減額(△は減少)	35	1
受取利息及び受取配当金	△0	△0
支払利息	9	20
為替差損益(△は益)	—	△0
持分法による投資損益(△は益)	282	92
売上債権の増減額(△は増加)	△763	△556
未収入金の増減額(△は増加)	△690	△334
棚卸資産の増減額(△は増加)	△170	△150
仕入債務の増減額(△は減少)	945	390
未払金の増減額(△は減少)	529	△610
未払費用の増減額(△は減少)	101	△57
その他	421	△489
小計	5,046	2,429
利息及び配当金の受取額	0	0
利息の支払額	△9	△7
法人税等の支払額	△559	△2,326
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,477	96
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△923	△1,299
無形固定資産の取得による支出	△361	△322
投資有価証券の取得による支出	△518	△306
関係会社株式の取得による支出	△0	—
敷金及び保証金の差入による支出	△138	△399
敷金及び保証金の回収による収入	0	0
その他	△2	△0
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,943	△2,328
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入れによる収入	95	—
長期借入金の返済による支出	△1	△26
株式の発行による収入	4,586	2
非支配株主からの払込みによる収入	300	—
自己株式の取得による支出	△0	△0
リース債務の返済による支出	△17	△13
財務活動によるキャッシュ・フロー	4,961	△37
現金及び現金同等物に係る換算差額	7	47
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	7,503	△2,222
現金及び現金同等物の期首残高	7,654	15,552
現金及び現金同等物の四半期末残高	15,158	13,330

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

1. 前第2四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)

当社は、2020年4月8日を払込期日とする公募による新株式の発行により、当第2四半期連結累計期間において資本金及び資本準備金がそれぞれ1,953百万円増加しております。

また、2020年5月1日を払込期日とするオーバーアロットメントによる売出しに関連した第三者割当による新株式の発行により、当第2四半期連結累計期間において資本金及び資本準備金がそれぞれ341百万円増加しております。

これらの結果等により、当第2四半期連結会計期間末において資本金が3,993百万円、資本剰余金が8,007百万円となっております。

2. 当第2四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしております。

収益認識会計基準等の適用による主な変更点は以下のとおりです。

自社ポイント制度に係る収益認識

当社は、宅配事業においてカスタマー・ロイヤリティ・プログラムを提供しております。会員の商品購入に伴い付与をするポイントについて、従来は、付与したポイントの利用に備えるため、将来利用されると見込まれる額をポイント引当金として計上しておりましたが、付与したポイントを履行義務として認識し、将来の失効見込み等を考慮して算定された独立販売価格を基礎として取引価格の配分を行う方法に変更しております。

本人及び代理人取引に係る収益認識

顧客への財又はサービスの提供における当社の役割が本人に該当する取引のうち、顧客から受け取る対価の総額から仕入先に対する支払額を差し引いた純額で収益を認識していたものは、顧客から受け取る対価の総額で収益を認識する方法に変更しております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は341百万円増加し、売上原価は655百万円増加し、販売費及び一般管理費は314百万円減少し、営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益はそれぞれ0百万円増加しております。また、利益剰余金の当期首残高は1百万円増加しております。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしております。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					その他 (注) 1	調整額 (注) 2	四半期連 結損益計 算書計上 額 (注) 3
	宅配事業 (Oisix)	宅配事業 (大地を 守る会)	宅配事業 (らでいっし ゅぼーや)	宅配事業 (Purple Carrot)	計			
売上高								
日本	23,047	7,094	9,083	—	39,225	3,778	—	43,004
米国	—	—	—	4,025	4,025	—	—	4,025
その他	—	—	—	—	—	536	—	536
顧客との契約から生じる収益	23,047	7,094	9,083	4,025	43,251	4,315	—	47,566
外部顧客への売上高	23,047	7,094	9,083	4,025	43,251	4,315	—	47,566
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	15	15	165	△181	—
計	23,047	7,094	9,083	4,041	43,267	4,480	△181	47,566
セグメント利益	4,335	1,193	1,626	352	7,507	563	△4,094	3,976

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ソリューション事業・店舗事業・海外事業(Purple Carrotを除く)・卸事業等を含んでおります。

2. 「調整額」のセグメント利益における主な内容は、固定人件費及び各事業セグメントに帰属しない一般管理費等の全社費用であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第2四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					その他 (注)1	調整額 (注)2	四半期連 結損益計 算書計上 額 (注)3
	宅配事業 (Oisix)	宅配事業 (大地を 守る会)	宅配事業 (らでいっし ゅぼーや)	宅配事業 (Purple Carrot)	計			
売上高								
日本	28,580	6,628	8,732	—	43,941	6,322	—	50,263
米国	—	—	—	5,511	5,511	—	—	5,511
その他	—	—	—	—	—	392	—	392
顧客との契約から生じる収益	28,580	6,628	8,732	5,511	49,453	6,714	—	56,167
外部顧客への売上高	28,580	6,628	8,732	5,511	49,453	6,714	—	56,167
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	25	25	196	△221	—
計	28,580	6,628	8,732	5,536	49,478	6,911	△221	56,167
セグメント利益	4,045	1,144	1,143	811	7,145	753	△4,551	3,347

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ソリューション事業・店舗事業・海外事業(Purple Carrotを除く)・卸事業等を含んでおります。

2. 「調整額」のセグメント利益における主な内容は、固定人件費及び各事業セグメントに帰属しない一般管理費等の全社費用であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

(報告セグメントの変更)

第1四半期連結会計期間より、従来「その他」に含まれていた「宅配事業(Purple Carrot)」について量的な重要性が増したため報告セグメントとして記載する方法に変更しております。

なお、前第2四半期連結累計期間のセグメント情報については変更後の区分により作成したものを記載しております。

(会計方針の変更)

会計方針の変更に記載のとおり、第1四半期連結会計期間の期首から収益認識会計基準等を適用し、収益認識に関する会計処理方法を変更したため、事業セグメントの利益又は損失の算定方法を同様に變更しております。

当該変更により、従来の方法に比べて、当第2四半期連結累計期間の「宅配事業(Oisix)」の売上高は244百万円減少、セグメント利益は0百万円増加し、「宅配事業(大地を守る会)」の売上高は68百万円減少、セグメント利益は0百万円増加し、「その他」の売上高は655百万円増加し、セグメント利益に与える影響はありません。